2018年10月14日

福音書からのメッセージ

イエスは弟子たちを見回して言われた。
「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」
（マルコによる福音書10章23節）

今日、わたしたちはある人の物語を聞きました。彼はイエス様のもとに走り寄ってひざまずいて尋ねます。永遠の命を受け継ぐには、何をしたらよいのでしょうか」と。彼は「殺すな」という戒めなどを子どものときから守ってきたと言います。ところがそんな彼に、イエス様は言われます。「持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい」。それを聞いたこの人は、気を落とし、悲しみながら、イエス様の元から立ち去ってしまいます。なぜなら彼は、たくさんの財産を持っていたからです。

わたしたちは「殺すな」という掟を聞いて、そんなことはしないというかもしれません。自分とは違う人や、関わると面倒な人とは距離を置き、何もせずにじっとしていれば肉体的にも精神的にも相手を攻撃し、「殺す」ことはないでしょう。しかし「殺すな」を、「生かせ」と置き換えてみるとどうですか。わたしたちが何もせずにほったらかしておけば、消えてしまう命があるとするならば、わたしたちが手を差し伸べないことは、その命を殺すことになりはしないでしょうか。

インドのカルカッタで一人の女性が、道端に倒れ死にそうになっている人を見つけました。他の人たちがまったく関心を示さず素通りする中で、彼女は彼に手を差し伸べました。彼女の名はマザーテレサ。彼女は貧しい人々と共に生きていきました。マザーテレサの言葉とされるものの中に、「愛の反対は憎しみではなく無関心です」というものがあります。無関心でいることは、愛とは真逆のことです。

わたしたちの周りにも、様子のおかしい人がいるかもしれない。困っている人がいるかもしれない。泣いている人がいるかもしれない。しかし、気づかない。目に入らない。関心が向かない。そんなことはないでしょうか。

今日の聖書に出て来た人は、持っている財産を貧しい人々に施しなさいと言われ、肩を落としました。要はあなたが普段関わっていないような人のためにお金を使いなさい。一緒に飲み食いして、一緒に生きていきなさい。そういうことなのです。

この言葉をイエス様は、彼を「慈しみ」ながら語ります。「慈しむ」という語は他の箇所では「愛して」と訳されている言葉です。つまりイエス様は彼をまっすぐにご覧になったとき、その心に愛が燃えたのです。イエス様はこの言葉を、愛情いっぱいに、じっと彼の目を見つめながら言われたのです。今、わたしがあなたに関わっているように、あなたもとなりにいる人と関わりながら、生きていきなさいと。

でもそれは、人の力だけでできることではありません。そのために、イエス様は来られました。わたしたちはあらゆるものにしがみつき、頼ります。しかしそのわたしたちをも、生かそうと、関わり続けてようと、決意されたのです。イエス様はその愛のまなざしを、わたしたちにも向けられています。

その愛をわたしたちは受け、そして周りの人と分かち合うのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/